

中部支部巡検会の報告 —十枚山構造線の露頭観察会—

長 島 昭*

昨年、静岡新聞の日曜版「石は語る」(2002年6月16日朝刊)に取り上げられた断層の露頭が、「十枚山構造線」であるのに「糸魚川-静岡構造線」と間違って解説されていることが本会会員によって指摘された。これらを検証するために行われた2002年10月19日の地質巡検(長島 昭の案内により本会会員13名が参加)について報告する。

国道1号線を静岡から宇津ノ谷に向かって進むと、二軒屋を過ぎて赤目ヶ谷にかかるあたりの左側に静岡市西部学校給食センターがある。問題の露頭は、このセンターの裏側の露頭で、中部総合開発KKの採石場となっている(図1)。今回の露頭観察は会社の特別の厚意により実現したことを明記しておく。

断層は採石場の大露頭のほぼ中央部に「斜めに走る裂け目」として国道からもはっきりと確認できる(図2)。本露頭では、断層の左側(東側)は破碎され、変質した粗面岩(玄武岩)からなり、部分的に黄鉄鉱の結晶が見られ、明らかに竜爪層群の一部である。また、断層の右側(西側)は黒色泥岩と砂岩からなり、典型的な瀬戸川層群の岩相を示す。断層の走向はほぼ南北で、傾斜は $40 \cdot 50^\circ$ Wで、約15 cm厚の断層粘土も観察される(図3)。

以上のように、この露頭に見られる断層は、新聞の説明にある「日本列島の中央部をほぼ南北に横切る大断層糸魚川-静岡構造線の露出面が偶然現れた……」ではなく、竜爪層群と瀬戸川層群が接する十枚山構造線であることがわかる。

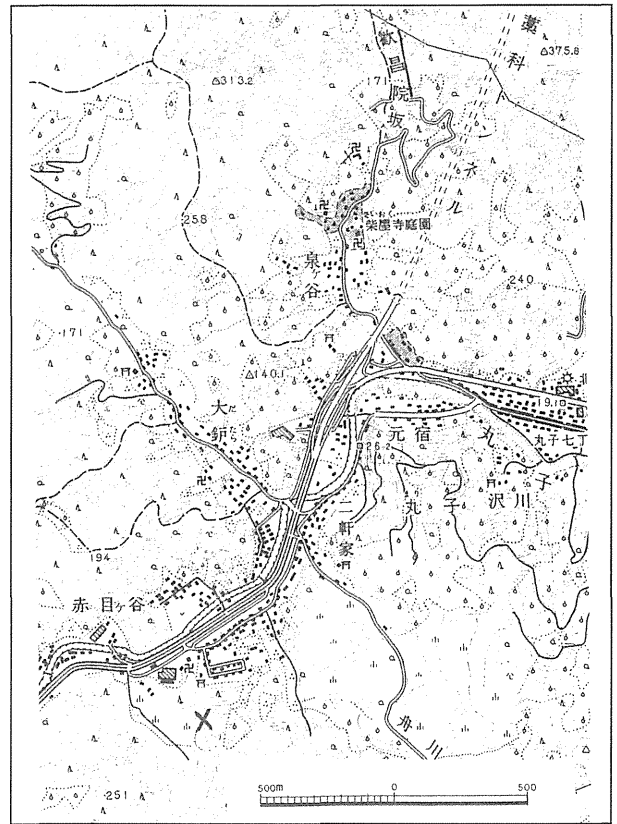


図1. 赤目ヶ谷における十枚山構造線の露頭位置図
(X: 中日本総合開発KKの採石場)。



図2. 国道1号線から見た中日本総合開発KKの採石場(露頭の中央部に、左上から右下に斜めに黒く見えるのが断層である)(H15.9.24.長島撮影)。

*静岡市中田1-4-5-1103



図3. 赤目ヶ谷の断層（走向N10° E, 傾斜40・50° W）
（断層の右側は瀬戸川層群の頁岩層, 左側は竜爪層群の粗面岩である）（H14.10.8.長島撮影）。

この露頭から北方を見ると、N10° E方向に勸昌院坂の峠（ケルン・バット）が見え、断層はそこに続いていると考えられる。また、この構造線は南下して高草山付近を通過して西に向きを変え、藤枝方面に続く。蛇足であるが、この露頭下の道路の側面には、頁岩、砂岩、チャートからなる瀬戸川層群が激しく褶曲している露頭が観察できる。

ちなみに糸魚川-静岡構造線は、静岡市付近では鯨ヶ池の東、桜峠トンネル東口の谷を南北に通り、その東側は静岡層群、西側は竜爪層群と接している（図4）。

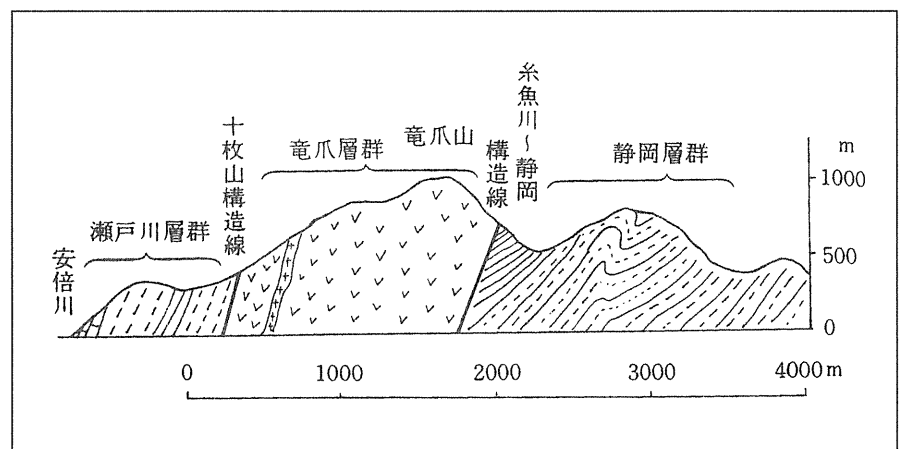


図4. 静岡市付近の地層断面図。